

熊本大学 設立60周年記念展示 「公印の記憶」

上野平 真希

設立60年目を迎える熊本大学

熊本大学は、1949年5月に新制国立大学として設置された総合大学で、今年2009年5月をもって、満60周年を迎えました。これを記念して『熊本大学60年史』が刊行されることとなり、昨2008年4月、熊本大学60年史編纂委員会と60年史編纂室が設置されました。現在、2011年の刊行を目指して編纂作業が進行中です。

これを機に、熊本大学の歴史を学生、教職員、卒業生、地域の皆様に広く知っていただくことを目的とし、附属図書館のご協力により、熊本大学の設立前後の歴史についての展示を行いました。

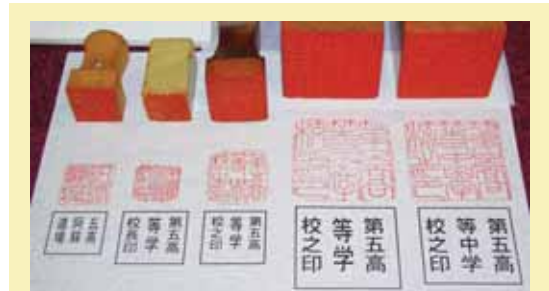
熊本大学の前身といえ、有名なのは第五高等学校（通称「五高」）ですが、すべての学部が五高から発生したわけではなく、例えば医学部の前身は熊本医科大学、というように、元々は別個の高等教育機関であったものが、戦後の学制改革により一つの大学として包括され、現在の熊本大学の各学部となりました。今回の展示では、60年史の編纂過程で所在が確認された資料の中から「公印」を取り上げました。この「公印」は、各学部のルーツを少なからずうかがい知ることの出来る、貴重な資料です。

以下、展示に使用した各学校の公印と、戦後間もない頃の公印から見えてくる熊本大学の歴史について、簡単に紹介したいと思います。

第五高等学校—文学部、法学部、理学部

第五高等学校に関する公印は多く残っていますが、今回展示した公印は、「第五高等学校之印」「第五高等学校之印」（大、小

2種）「第五高等学校長印」「五高阿蘇道場」の5つです。



今回展示した第五高等学校関係の公印
(いずれも五高記念館所蔵)

1887年5月、当時全国で5つしかなかった大学予備門の一つ、第五高等中学校が熊本に設置されます。これが「五高」の始まりです。そして、1894年にこの第五高等中学校が第五高等学校と名称を改め、医学部（のち長崎医学専門学校、現長崎大学医学部の前身）と大学予科が、1897年には工学部（1906年高等工業学校として独立）がそれぞれ設置されました。

1949年の熊本大学発足にあたっては、第五高等学校は法文学部（現在の文学部と法学部）と理学部の基礎となりました。

今回は、五高の公印に加え、「五高阿蘇道場」の印も取り上げました。これは、1940年2月に完成した、第五高等学校の校外寮「阿蘇道場」で使用されたものです。阿蘇道場は、新制熊本大学発足ののち、本学の学生・教職員のための厚生施設「熊本大学阿蘇研修所」として1987年まで使用されました。残念ながら、施設の老朽化により1992年に解体が行われ、現在はその姿をみることは出来ませんが、阿蘇道場は、戦前の前身校の財産が熊本大学へ引き継がれた具体例と言えるでしょう。

なお、今回展示したこれらの印鑑は現在五高記念館で見ることが可能です。

熊本工業専門学校—工学部

熊本工業専門学校のルーツは第五高等学校の工学部にあります。1906年にこの五高工学部が独立し、官立（現在の国立にあたります）の熊本工業学校となりました。その校舎は第五高等学校の対面、現在の黒髪南キャンパスに置かれました。その後熊本高等工業学校は熊本工業専門学校となり、1949年に熊本大学に包括され、現在の工学部の母体となりました。

今回展示したのは、工業専門学校関係では「熊本工業専門学校長之印」、工学部関係では「熊本大学工学部」「熊本大学工学部長印」「熊本大学工学部事務長之印」の全4種類です。これらの公印はすべて自然科学系事務部（工学系）に保管されていたものです。

工学部関係の公印
（自然科学系事務部
所蔵）



「熊本工業専門学校長之印」
（自然科学系事務部所蔵）
今回展示した公印では唯一の
細工物で、親子の獅子が彫られて
いる。



熊本医科大学—医学部

現在の医学部の前身の熊本医科大学は、戦前、全国に6校しか設置されなかった官立の医科大学のうちの一つです。

熊本大学医学部の直接の母体となる私立熊本医学校は1896年に設置されましたが、熊本における医学教育の始まりはそれよりもっと前、1756年に細川重賢が創設した再春館まで遡ることができます。

今回展示した熊本医科大学関係の公印は、「熊本医科大学」「熊本医科大学長之印」「熊本医科大学歳入徴収官印」の3点です。



「熊本医科大学」印
（生命科学系事務部所蔵）
この印は、医科大学の
卒業証書などに押された

また、医学部関連のものとして、「熊本大学熊本医科大学」「熊本大学熊本医科大学長之印」のように、熊本大学と熊本医科大学の名前がならんだ公印があります。

熊本大学と熊本医科大学
の名前が並んだ印
（生命科学系事務部所蔵）

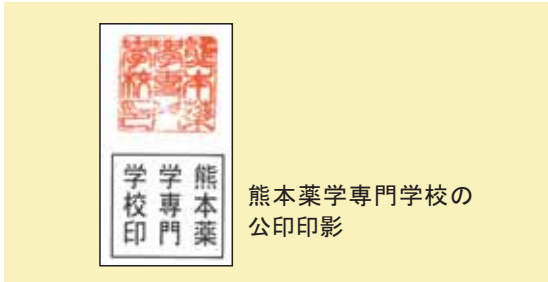


熊本大学が新制大学として発足したのは1949年ですが、熊本医科大学の学生募集は1950年3月まで行われており、また、研究課程と学位審査機関のみは1960年3月まで熊本大学の包括学校として存続していました。そのため、医科大学が医学部の中に含まれる形で存在した11年の間に、このような公印が使用されていたのです。この公印は、旧制医科大学と新制大学医学部を結ぶ、貴重な資料だと言えます。

なお、これらの公印はいずれも生命科学系事務部（医学系）にて保管されていたものです。

熊本薬学専門学校—薬学部

熊本薬学専門学校は1885年に設置された私立熊本薬学校を直接の母体とする、西日本における薬学教育研究の拠点でした。1910年には日本で最初の私立薬学専門学校となり、1925年には日本で2番目に官立の薬学専門学校に移管することとなります。熊本薬学専門学校は、熊本大学が発足するにあたり、薬学部となりました。



残念ながら薬学部の公印の現物は見つかっていないため、今回の展示では、薬学部にある熊薬ミュージアム所蔵の資料に残されている公印の印影2点「九州薬学専門学校長」「熊本薬学専門学校印」を展示しました。なお、熊薬ミュージアム所蔵資料には、今回展示したもの以外の、薬学部の前身校の公印の印影が数多く残されています。

熊本師範学校、熊本青年師範学校—教育学部

熊本大学教育学部の母体となった学校は2つあり、いずれも戦前の熊本における官立の教員養成機関でした。

1. 熊本師範学校

熊本師範学校は、1943年に設置された官立の教員養成機関です。このルーツは1874年に熊本県により設置された仮師範学校にまで遡ることができます。



熊本師範学校関係の公印（教育学部事務部所蔵）

今回の展示では、「熊本師範学校」「熊本師範学校長之印」「熊本師範学校庶務課」「熊本師範学校男子部」のように、学校に関するもののほか、「熊本師範学校男子部同窓会長」「熊本師範学校男子部父兄会長」「熊本師範学校男子部報国団印」などの印を併せて展示しました。

2. 熊本青年師範学校

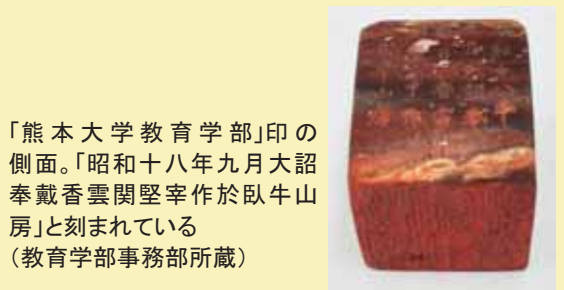
官立熊本青年師範学校は1920年に県立熊本農業学校に付設された熊本県農業教員養成所を母体としており、1949年に熊本大学が発足するまで、熊本県における青年学校教員の養成機関として多くの教員を輩出してきました。「熊本青年師範学校長」「熊本青年師範学校」の2種類の公印を展示しました。



熊本青年師範学校関係の公印（教育学部事務部所蔵）

3. 熊本大学教育学部

上記の師範学校、青年師範学校を包括して成立した熊本大学教育学部ですが、下に掲げた公印が教育学部で使用されたものです。



この「熊本大学教育学部」の印の側面には、昭和18年（1943年）にこの印が作られたことが記されています。このことより、前身校で使用された公印（残念ながら、師範か青年師範かはわかりませんが）が、新制大学となったのちにその印面を削り取り、教育学部印として再度使用されていたことがうかがえます。

以上、教育学部およびその前身校関係の公印は、すべて教育学部事務部にて保管されていたものです。

蔵書印に見る熊本大学の歴史

以上紹介してきた印は、すべて熊本大学の各学部に残されていたものです。これらの印のうち、特に前身校関連の公印について、唯一、各学部以外に保管されてきたものがあります。それが、次に紹介する蔵書印です。

現在、「熊本師範学校図書印」と「熊本医科大学附属図書館印」の2種が確認されています。



また、附属図書館のご協力により、戦後の図書印の変遷についても展示が行われました。普段何気なく目にする蔵書印も年代により違いがあり、また、最近ではIDラベルやバーコードラベルなどが使用されていることから、社会の情報化とそれに対応する附属図書館の姿というものが見えてきました。

以上のように、「公印」という普段目にするものから、気に留めるものから、熊本大学が歩んできた道が見えてきます。

今回の展示が、みなさまが少しでも熊本大学の歴史に興味を持ち、熊本大学について考えるきっかけとなれば幸いです。また、併せて熊本大学60年史編纂事業へのご理解とご協力を賜りますよう、宜しく願いいたします。

うえのひら まき 熊本大学60年史編纂室

附属図書館での展示の様子



今年度も「くまぼんしおり」始めました！！

昨年度、誕生した図書館公認キャラクター「くまぼん」のしおりが今年度も作成されました！昨年度の8種類の絵柄に加え、新たな絵柄が8種類増えました。図書館で行うガイダンスのほか、毎月第1・3火曜日を「くまぼんしおりの日」として、図書館カウンターでも配付しています。また、熊本大学学術リポジトリの広報のために、羽をつけた「くまぼん」が登場する「リポジトリ版 くまぼんしおり」も8種類作成しています。こちらも順次配付する予定です。

(「くまぼんしおり」は数に限りがあるため、なくなり次第、配付を終了させていただきます。)